

令和7年7月25日(金)、北島中学校にて『「うえるびーいんぐ」向上委員会』を開催しました。教育研究家 妹尾昌俊さんを外部アドバイザーとしてお招きし、前半は北島中学校の教職員を対象としたワークショップ、後半は県や市町村教育委員会の関係者による意見交換会を実施しました。

ワークショップ

「働きがいがあり、かつ働きやすい学校づくり」

～先生のHappyが子どもの笑顔をつくる～

【講師】妹尾 昌俊さん（教育研究家）



- 先生方の健康・命を守るために、働き方を見直す必要があります。
- 教員採用試験の、女性の受験者が激減している(特に中学・高校)。普段から7時間目まで授業し、補習や模試、土日には部活となると、育児をしながら働きづらい。教育実習でそのようなイメージを持ち、教職を諦める方も多いようです。

- 教育に関して何にでも精通している完璧な先生はいない。先生にも、得意・不得意があって当たり前。「教師の資質能力の向上」にも限界はある。個人の能力では足りない部分があれば、互いに補い合い「ノウフー(Know Who)」を共有することが大切です。
- 時間は有限。先生方一人一人が「理想的な一日の過ごし方」をイメージし、その実現のために学校として何をするか、アイデアを出し合い、みんなで一緒に考えていきましょう。

ワークショップの様子は「とくしまの学校における働き方改革HP」にて、10月末まで視聴することができます。

【URL】<https://hatarakikata.tokushima-ec.ed.jp/>



県市町村教育委員会 意見交換会



【市町村教育委員会より】

- 授業時数を見直し、「週28時間授業」で教育課程を運用しています。現場の先生方から大変好評です。
- 夏休み明けの1週間を「ゆったりスタート」として、児童生徒は昼じまい、教員はノー残業としています。自治体単位で一斉に取り組むことは非常に有効だと感じています。
- 今年度から、学校で解決するのが難しい事案が発生したときに、「学校問題解決支援コーディネーター(学校長OBや警察OB)」を派遣しています。
- チーム担任制を導入しています。学校を「安心して学べる場」「安心して働ける場」にすることが目的です。
- 先生のための相談員として「学校教育相談員(行動心理士)」を派遣しています。

【妹尾さんより】



- 授業時数や校時表の工夫については、文科省「教育課程部会 教育課程企画特別部会」の資料を参考にしてください。(↑リンクを貼り付けています。) 教育課程を積極的に見直し、放課後の時間を生み出しましょう。
- 職員の勤務時間を周知し、地域や保護者に教員の勤務実態についての理解者を増やすことも大切です。
- 人材育成の優先順位は高いはず。その時間を確保するために、「何かを手放すこと」も必要ではないでしょうか。
- 教委、校長の皆さん、こんな指導・支援になっていませんか？
 - (1) 時短が目的化している
 - (2) 多忙の背景・要因を見ていない
 - (3) 個人の意識やタイムマネジメントのせいばかりしている
 - (4) 学校・教委が丸抱え(丸投げ)している
 - (5) できない理由や心配事ばかり探して一歩を踏み出せない